

アップルがiPad mini販売を停止するか、出荷縮小に伴い仁宝電腦工業(コンパル・エレクトロニクス)などに生産委託先を変更する可能性がある」と指摘した。

証券会社は、ペガトロンの今年のDMS(設計製造サービス)設備投資額は70億台湾元(約260億円)と昨年の30億~40億元からほぼ倍増すると予測した。来年の予算は策定中だが、今年よりは多い見通しだ。

スマホ減速、5年で成長半減も

中国メディアの報道によると、鴻海傘下の富智康集団(FIHモバイル)は河南省の鄭州航空港区での今年1~10月の携帯電話生産台数が1億500万台に上った。これまでの通年生産台数は、2011年、2,445万台 12年、6,846万台 13年、9,645万台 14年、1億1,800万台で、今や同社にとって世界最大のスマートフォン生産拠点となった。証券会社は、今年8月中旬からiPhone6s、iPhone6sプラスが量産に入ったため、通年生産台数は1

億5,000万台と予測した。

市場調査会社、IDCによると、今年のiPhone出荷台数は2億2,600万台と前年比17.3%増、市場シェア15.8%の予測だ。一方、今年の世界のスマホ出荷台数は14億3,000万台で前年比9.8%増と、過去最低の伸びになると予想した。19年の成長率は4.7%と今年の半分になり、今年から19年まで5年間の年平均成長率(CAGR)は7.4%にとどまる見通しだ。

【電子】

RSテクノロジーズ 台南工場が竣工

シリコンウエハー再生加工の世界最大手、RSテクノロジーズ(本社・東京都品川区、方永義社長)の初の海外工場となる台南工場(台南市新市区)が完成し、4日竣工式が行われた。

同社は半導体メーカーが製造工程で使用するモニター用ウエハーの再生加工を



方永義同社社長(中央)は「台南の地の利を生かして、台湾半導体産業の発展に貢献していきたい」と抱負を語った(4日=YSN)

手掛けており、台湾積体回路製造(TSMC)、南亜科技、華亜科技(インテラ・メモリーズ)、力晶科技(パワーチップ・テクノロジー)など顧客企業に近い場所で操業するために台南に進出した。自社の輸送コスト低減のみならず、供給サイクルを速めることで顧客の在庫圧縮にも貢献する。

台南工場の投資額は24億円で、来年第2四半期には最大生産能力である月産10万枚に到達する見通しだ。現在同社はウエハー再生加工の世界市場でシェア29%を有するが、同工場の稼働によって3割台に達して競争優位性をさらに高める。